



高原の自然館ニュースレター

苜尾電波塔

第14号

2005. 2. 1

高原の自然館

苜尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。

一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめてもっぱら「かりお」の名前をつけています。

もくじ

お知らせ

- 北広島町が誕生
- 八幡湿原再生協議会が開催
- 『苜尾』の原稿を募集
- アンケートにご協力ください

活動報告

- アニマルトラッキング

観察会案内

- 雲月山の山焼き
- 山焼き後の観察会

お知らせ

北広島町が誕生します (2005.2.1)
1956年から48年余続いた芸北町は1月31日をもって閉町し、2月1日からは北広島町が誕生します。高原の自然館の活動は変わらず続きますので、今後ともよろしくおねがいします。

八幡湿原再生協議会が開催されます (2005.2.13)
「八幡湿原再生事業」における検討協議会が2月13日13:00より、芸北文化ホールにて開催されます。一般傍聴も可能ですので、興味のある方はご参加ください。

『苜尾』の原稿を募集しています (2004.11.26)
西中国山地自然史研究会の会報『苜尾』の原稿を募集しています。内容は西中国山地の自然や動植物に関する情報や自然に関わる活動報告、自然賛などで、600～1600字程度にまとめてください。写真を大歓迎します。あなたの見つけた小さな発見を、会員のみなさんにも伝えてください。

アンケートにご協力ください (2005.1.4)
今後の活動をより充実させるため、アンケート調査を行っています。前回の苜尾電波塔に同封されていたアンケート用紙に記入のうえ、ご返送ください。

活動報告

アニマルトラッキング

開催日時：2005年1月16日

講師：畑瀬 淳

参加料：1,000円（ただし、会員は無料）

協力：高原の自然館、芸北町民文化ホール

年末の初積雪からの根雪でたっぷりの雪。前夕からすでに予想された悪天候に抗って決行を決めたものの、参加者が来館できるかと心配されましたが、さすが！ぞくぞくと集合です。雪輪持参での参加組はなかなかの意気込みです。今年も講師は広島市安佐動物公園の畑瀬淳先生です。開始から、すでに積雪でちょっと判断の難しくなった足跡。歩幅などから体長を推測し…アナグマ(?)、「くの字歩行」のタヌキ、直線歩行のキツネ、爪痕の有無などそれぞれの特徴を聞く。積雪の具合からどれくらい前に歩いたかなど、見えにくい中にも、いろいろの情報が詰まっています。1メートルはあろうかという新雪積雪の中、数少ない痕跡でしたが、多人数で歩けばこそこの観察会でした。午後からは毛皮・頭骨標本での説明。テンの減少か、今日は痕跡未確認。県内の動物の生息範囲やツキノワグマ・イノシシの話など質問も多岐に渡り、名残惜しい解散でした。



各々スノーシューを履いて、いざ出発。今年は先生をはじめ、雪輪持参の方が10名。



体力に自信のある人は道から外れて、先生の後続く。



出発前のあいさつ。



道路をトレースしながら千町原を進む。



全体で大休憩，話題はそれぞれの足下，スノーシュー・かんじきの話に。



キツネの痕跡，体ごと埋まって歩いている。



クマ棚のある樹の下まで行き，爪痕を確認する。ミズナラ・コナラ・クリなど。



キツネのマーキング，遠くからでもプ〜ンとにおう。



ツキノワグマの爪痕。



昼食後，毛皮・頭骨標本を見ながら，説明を受ける。

観 察 会 案 内

● 雲月山の山焼き

このたび、北広島町雲月地区では雲月山の山焼きを再開することになりました。現在、山焼き実行委員会では火道刈り&火の番を手伝っていただけるボランティアを募集しています。

かつて雲月山の山焼きは地元の行事として行われていましたが、地域の間だけで行うことは困難なため、この10年間は中止していました。しかし、このままでは山様に変化し、雲月山本来の魅力が失われるため、広くボランティアを募集し、少しずつでも焼いていこうということになりました。かつて、日本では国土の1割以上が草地でしたが、農業の機械化や酪農製品の流通が進んだことから、牛馬を飼育する必要が減り、今日では草地は約3%にまで減少しています。この面積には伐採の跡地や耕作放棄地も含まれていますから、本来の意味での草地はさらに少なくなっています。広島県内で山焼きが継続されているのは深入山くらいであり、大規模な二次草原はほとんど見られなくなりました。二次草原が無くなれば、当然、そこに生息する動植物も住みかを奪われるため、草地の保全は環境を保全する上で大きな課題です。

雲月山の草原を維持してきたものは、放牧・採草という農村文化だったわけですが、今後はボランティアと地元が一体となった広域的な文化が雲月山を核として生まれようとしています。

開催日時：2005年4月9日(土) 8:00～
(雨天の場合は翌日に延期)

集合場所：雲月山駐車場

参加料：500円(予定/昼食代、保険代を含む)

● 山焼き後の観察会(予定)

火を放たれた翌日の雲月山を歩いて、火入れがどのように植物に影響を与えるかを観察します。この時期に生えている植物は少ないですが、山焼き直後の様子を見ておくことで、その後の山歩きが何倍も楽しくなるはずで、まだ詳しいことは決まっていますが、追って連絡します。

開催日時：2005年4月10日(日) 9:30

集合場所：雲月山駐車場

講師：未定

準備：山を歩ける服装、弁当、水筒、筆記用具、
双眼鏡など

定員数：未定

※※※ 宿泊プランについて ※※※

前日の「雲月山の山焼き」と合わせて、地元の民宿を使った宿泊プランを検討中です。これについても詳細は追って連絡します。(こんなプランがあると、利用しますか?お返事頂けるとありがたいです。)

— インターネット版のご紹介 —

苅尾電波塔はe-mailでも発行されています。また、高原の自然館ホームページからはpdfファイルをダウンロードできます。インターネットを利用すれば、関連ホームページにジャンプしたり、写真をカラーで見られたりと、便利です。

高原の自然館では、紙資源の節約と事務処理の軽減のため、インターネットの利用をお願いしています。今後、紙版の郵送が不要な方は、高原の自然館までご連絡ください。

自然館に行くと、屋根に登れそうなほど雪が溜まっています。町の名前が変わっても、やっぱり八幡は八幡の、芸北は芸北の自然が営みを続けて行くようです。人が作った名前に振り回されずに自然の摂理を見なければ、と改めて思いました。そんな中、雲月地域では山焼きが再開されます。地域の環境は地域の人々が中心になって維持していく。これって基本のような気がします。

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしています)

高原の自然館(こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://shizenkan.info/>

nature@town.geihoku.hiroshima.jp